

上北山村の郷(まち)づくり



村のうちそとから多世代が集う
ふれあいの郷(まち)づくり

来たい、住みたい、住み続けたい “かみきた”



平成29年 9月28日
上北山村

位置図



【道の駅かみきた】



【旧小学校跡地】



【ホテルかみきた（休館中）】



【ワースリビングかみきた】

国道169号

河合周辺地区の郷(まち)づくり

＜郷(まち)づくりの背景＞

- 役場、ワースリビングかみきた(診療所・保健センター)、郵便局、交番、商工会など**主な機関が道の駅から1キロ圏内に集中**しており、同地区は**村民の生活の拠点であり、村の「顔」としてふさわしい地区**である。
- 上北山村の4つの集落は、**村内のどの地区に行くにも河合地区を通る**必要があり交通面からも村の中心といえる。
- **道の駅周辺施設**(道の駅・上北山温泉・ホテルかみきたの3施設)は、すべて築20年以上経過し**老朽化**も著しく観光拠点としての機能が低下している。
- 大台ヶ原という大きな観光資源はあるが、大阪や奈良県北部からのアクセス道路が道の駅や温泉施設のある村の中心部を経由しないため、年間9万人を超える**来訪者数に比して、地域への経済効果が非常に少ない**。
- 少子高齢化や人口減少により**各集落のコミュニティ機能の維持が困難**になっている中で、住民同士が楽しく生活していくための環境整備が必要になっている。
- 日本遺産「河合の弓引き行事(八日薬師)」が伝統行事として行われ、また「かみきた夏祭り」の開催や、「ヒルクライム大台ヶ原」のスタート地点ともなっており**村内外の人々の集う場**となっている。

＜郷(まち)づくりのコンセプト＞

村のうちそとから多世代が集うふれあいの郷(まち)づくり

～来たい、住みたい、住み続けたい“かみきた”～

- ・ 観光立村を目指すには**道の駅機能・温泉機能・宿泊機能を再整備**することが必要であり、既存施設をリニューアルし再生することで観光客の誘致、雇用の場の創出を目指す。
- ・ 限界集落化が進むと予想される中、今後ますます**地域での繋がりが重要**となり、地域の方々の**住民相互の助け合いをはじめとした様々な地域活動への主体的な参画が必要**である。そのためにも住民や住民グループが活動する場の提供による、新しい地域活力の発掘と育成を進める。

<郷(まち)づくりの取組イメージ>

○交流人口の増加、雇用の場の創出による村の活性化

- ・ バリアフリーにも対応した日帰り入浴施設の整備
- ・ 村内外の交流場所の設置（温泉施設及び休憩施設）
- ・ サイクリストにも対応した村外観光者向け施設の整備
- ・ 気軽に泊まれる簡易宿泊、シェアオフィスなどに対応できる施設の整備
- ・ 大台ヶ原と連携したイベント（ヒルクライム等）の開催
- ・ コンビニ誘致による村外観光者の利便性と村民の生活支援
- ・ 大台ヶ原等へのツアーバス発着場の整備やツアーの開催
- ・ 北山川沿いの遊歩道や子どもと一緒に楽しめる水遊び場所の整備
- ・ 親水エリアを活用した野外コンサートやマルシェの開催
- ・ 水を楽しむ遊歩道や後南朝の歴史をたどる発着ツアーの開催
- ・ フリーWi-Fiの環境整備

○高齢者の生きがいづくりやふれあいの機会づくりと、子供を地域全体で育てる環境づくり

- ・ 子供から高齢者が一緒に過ごせる小さな図書館などコミュニティスペースの整備
- ・ 住民グループが活動する拠点としての部屋提供
- ・ 村民の文化活動、スポーツ活動等の生涯学習の場としての提供
- ・ 学生の合宿やイベントボランティアの宿泊場所の整備
- ・ 停電時の非常用電源の確保及びヘリポート設置の検討
- ・ 検診や医師などの専門家と連携した健康づくり（健康運動教室など）
- ・ 村内を巡回するコミュニティバスを再編し、3拠点へのアクセス性を向上（道の駅かみきた～旧小学校～ワースリビングかみきた）

<河合周辺地区の郷(まち)づくり取組イメージ図>

